

九月例会御案内 (平成二十二年)

時代を刷新する会

○ 御案内

九月十日(金) 正午～二時半 参議院新議員会館 地下一階B一〇三会議室 (第二九二回)

講 題 民主党首選挙とその後の日本の行方
講 師 板垣英憲先生(政治評論家)

政権政党・民主党の党首選挙は、八月三十一日、結局、菅直人総理と小沢一郎前幹事長とが名乗りを上げ、九月十四日に、民主党国会議員、同地方議員、党員サポーターによる決戦投票により、次の党首・総理が決まることになりました。

両者の政策をみると、マニフェストの修正か堅持かのほか、経済・財政、安全保障などの面で差異があります。いま、日本が危急存亡の瀬戸際にあるとき、党首・総理に選ばれるのがいずれかによって、この日本の行方はどうなるのか、が大きな問題となります。

そこで今回は、かつて姉妹団体でも講演いただき、感銘を受けた政治評論家の板垣英憲先生に分析・御解説をいただきます。重要なテーマ、奮っての御参加、お待ち申し上げます。

◎ 当日の会費 四千円(昼食の準備もあり、前日までに欠の御連絡をいただきました)
(清原記)

□ 御報告

八月は、一月～七月の事務整理のため、月例会は休ませていただきましたが、再開します。去る七月七日の月例会は、「頑張れ! 日本の製造業!」——中韓印泰越を乗り越える経営——と題し、政策研究大学院大学教授、元通商産業省総括研究開発官の橋本久義先生に、御講話をいただきました。その要旨は、まず、東大工学部で鳩山由紀夫前総理とは同期で仲がよかった。当時は、東大安田講堂事件があり、授業もなかったもので、余り勉強しないまま、卒業となった。学者肌でまさか総理になるとは思わなかった、等々の前置き披露のあと、御専門の本題に入り、

例えば、いま、自動車は電気自動車に代わると言われているが、そのバッテリーは約二百万円、しかし、年々劣化し二年で三分の一の効率に落ちる。充電スタンドといっても、一時間充電で五百円にしかないから、充電スタンドは商売にならない。やはり、ハイブリッド自動車だが、三万点の部品を必要とし、精密なその部品を作れるのは日本だけである。かくのごとく、日本の各種部品工場は優秀であり、そうした町工場を補助し維持させることが重要である。民主党のマニフェストを実行すると、日本が潰れることを憂えると述べるなど、現場をすべて視察しての論証だけに、説得力があり感動しました。その後の質疑応答も盛んでした。

▽ 当「時代を刷新する会」は、「何事も人類・国民のためになることには、時代を先取りして積極的に取り組もう」との趣旨で、昭和五十六年、岸信介元総理によって設立されたシンクタンクです。晩年の岸元総理がそうであったように超党派・超派閥で、真に国を憂える有志により構成されています。第二代会長は、木村睦男元参議院議長。第三代が櫻内義雄元衆議院議長。第四代・塩川正二郎元財務大臣は、昨年七月、九十歳を機に辞任され、現在は、江口一雄元衆議院議員が会長代行に就任している。理事長は、平成十四年から半田晴久が就任しております。毎月の月例会のほか、内部に、教育部会、医療福祉部会など八つの部会と、環境技術委員会、新エネルギー委員会などの委員会があり、これまでに、政府へ一三四本に及ぶ要請書・意見書を提出するなど、活発な活動を展開しております。

▽ お知り合いで、こうした志のある方をお誘い下さい。(年会費は一口一万円)

事務局電話(03) 3272-4320 専務理事兼事務局長・清原淳平、総務 重田、高津

◎ 添付のハガキ、または、FAXにて、前日までに、当事務局まで、御返信をいただきました。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

九月十日(金) 出 欠 (いずれかに〇印——昼食弁当を用意するためにも)